

小野清秀 せいの 京教評論家。明治四年二月豊前國宇佐郡高並村生れ
 (一八七一)。號禿山。家は大井憲太郎生家の本家といふ。明治二十九
 年上京、日本法律學校に學び、傍ら『自由新聞』に關はり、次で『内
 外新聞』主筆となる。その後京教研究會に參劃して幹部となり、機關
 誌『時代京教』に執筆。四十一年屯田傳道を企て、窮兒・懲治出監者
 等の保護と韓國屯田事業と有的とする自韓保育院を開設、院長となり
 た。大正十年労働會を興し、就職の斡旋、深川に寄宿舎を設けるなど
 社會事業にも當る。また大興社を設てとして自著の出版に従事。京教研
 究會會長。

著書に、『淨宗哲學』(大正十四年九月五日大興社)、『釋迦と基督』
 (昭和九年二月十五日成光館書店)、『政神道術與後傳』(昭和二十
 一年九月)二十日大阪・大文館書店)他多數。

